



1636年～1869年(約230年)

## 伊予西條藩を知る ②③

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家



### 西條誌 日野和煦 ひのこてゐる

江戸時代後期/天保13(1842)年

第9代伊予西條藩主松平頼学(まつだいら よりさと)の命により、藩の儒学者日野和煦(ひのこてゐる)が1836～1842年に編纂した地誌。領内70か村から提出させた「惣改帳」「差出帳」などの基礎資料に領内の実地調査を加えることで、7年の歳月をかけて20巻からなる「西條誌」を5部完成させた。



そのうち3部を江戸藩邸に届け、2部を西條藩に残した。西條藩に残されたものの1部が、1955年に日野家より愛媛大学に寄贈された。この地域の郷土史研究の基礎的史料である。

#### ●「西條」さいじょう

新居浜市角野にある新谷寺に、「上島山を境に西を西の條といい、東を東の條という」記録があった。健保六年(1218)の予章記に「西條御館」と書かれていて、新居浜市泉川町喜光地に東條の地名が残っている。第2次大戦後、A級戦犯東条英機と地名が同じということで使用されなくなった。

#### ●「大町村」おおまち

和田新兵衛義根(よしたね)は、伊予郡松前町に住んでいたが、仏門に入って法名西岸院念誓浄式居士と言った。浄式は西條城主河野伊予守道直公の許しを得て西條の荒原を開墾し、故郷の地名をそのままとって大町村と名付けた。ちょうどその頃、隣り村中野に水害があり、災害にあった人たちが大町に移り住んで、一つの村ができた。

浄式は天正四年(1576)に亡くなっているから、大町の地名の起こりは、天正の初めころ、今から450年余り前であろう。なお、浄式は大念寺も開いた。

つまり、大町の起源は、大念寺の起源。願生山 大念寺が誕生して大町が誕生した。

大念寺には、名著「西條誌」を編纂した日野和煦や大町村庄屋 田中喜兵衛の霊位を奉祀する。

#### ●「神拝村」かんばい

神拝の地名の起こりは、『西條誌』に「昔は近郷より石鎚山へ登拝するもの、五月晦日(みそか)の夜、弥山々下(みせんさんか)の夜明(よあかし・夜明かし峠)という処に集り、篝(かがり)を焚き、夜を守り、暁近くなれば、松明(たいまつ)を把て絶嶺(頂上)に攀(よじ)のぼる。近村の参詣せざるもの、当村に群集し、かの炬火(たいまつ)のぼるを仰ぎ見て、石鎚の神を遥拝す。」ここを以て、この村名【神拝村】を得たりという。

#### ●「神戸村」かんべ

天照大神、武国凝別命を祀る伊曾乃神社は、天平神護元年(765)朝廷より、神社の領地と、その土地を耕作し、神社の雑役を勤める人々の家(神戸)を与えられ、賀茂郷より分かれて、神の封戸(ふご)の地として神戸郷と名づけられた。「磯の台地」は、神の領域であり、文化の古里である。

(参考資料)：西條市誌(西条市)、西條誌(日野和煦)、注釈西條誌(新居浜郷土史談会)、大町よいとこ、

大町の歴史と史跡めぐり(大町公民館)、愛媛県生涯学習センター、他